

小樽掖済会病院 CT 室紹介

こんにちは。小樽掖済会病院 放射線部 鳥本と申します。

この度は当院の CT 室を紹介するということで、ふつつかですが担当させていただきます。

去る 2015 年 12 月 1 日、当小樽掖済会病院は新築移転開院致しまして、CT 装置も新しく New Aquilion PRIME が入りました！

というわけで、新施設の紹介も併せてさせていただきます。

新施設は旧施設より徒歩 5 分強小樽駅の方(運河から遠ざかる方向です)へのぼっていった場所に移転しました。小樽駅からより近くなり、更に少し高い所へ移ったので日当たりと中からの景観が良くなって嬉しい限りです。



放射線部は全てのモダリティが 1 階の一区画にあり、受付や外来からのアクセス抜群・検査効率良好、更に中の操作・解析スペースも広く患者様と技師双方に優しい造りとなっております。

さて、ようやく CT 室の紹介に入ります。我が放射線部 CT 室のアピールポイントといえば、広いこと!これです。部屋自体が広い上に、CT がサイズダウンしたので、相乗効果で体感面積はかなり広いです！もしもストレッチャーが反対向きに入ってきてしまったとしても... 安心してください、その場で回れますよ！ です。しかし私の残念なカメラワークの為にこの広さを写真で表現できなかったことを誠に残念に思います。

そして私の個人的な CT 室の押しポイントは内装です！内装は部内で話し合っただけなのですが、青い壁・青い空(天井)・青い CT と、トータルコーディネートされた一室となっております。ちなみに検査室毎に壁の色を変えているんですが、CT 室が水色になったのは偶然です。天井を空模様になっているのは前施設から引き続きのこだわりポイントで、患者様から好評を頂いております。



そんな部屋の中に置いてあるCT Aquilion PRIME/Beyond Editionは、前施設にあったPRIMEよりもガントリが小さくなり開口径は広いので、見た目はコンパクトに、検査中の圧迫感はより少なくなっていると思われます。また少し細かい話ですが、コンソール側に置くユニットも前と比べてかなり小さくなっており、これも嬉しい変化です。中身ですが、ソフトはVer.7でAIDR3D EnhancedやSEMARが使えるようになりました。が、実は現時点ではまだ使い始めたばかりでこれから使いこなしていきたいな～、とワクワクしている段階です。

当院では、Variable Pitch Helical Scanというシステムを使い、上腹部から骨盤領域の撮影の際に肝臓と骨盤腔の設定SD値を変えて撮影を行っています。この撮影法とSEMARの併用ができないことや、AIDR3D EnhancedやSEMARは再構成時間が長くなってしまうことなど解消すべき課題はありますが、せっかく入ったこれらのアプリケーションをうまく取り入れて行きたいなと考えています。

そんな訳で施設の紹介ばかりになってしまいましたが、これで当院のCT室紹介を終わらせて頂きたいと思います。